

トラック関連業界、日本最大の展示会!!



ジャパン トラック ショー 2026

2026 in Yokohama

5/14(木)・15(金)・16(土)
パシフィコ横浜

「変化を楽しみ そして未来へ 変わらないもの - Peace of mind(安心)」をテーマに
課題を解決するために効率化機器や作業環境改善機器などご提案をします。



*写真はジャパン トラック ショー 2024 のものです

BANZAI 株式会社 バンザイ

本社
東京都港区芝2-31-19
TEL 03-3769-6880
E-mail:eigyo@banzai.co.jp

営業部
東京都港区芝2-31-19
TEL 03-3769-6881

海外販売部
東京都港区芝2-31-19
TEL 03-3769-6894

札幌支店
札幌市西区24軒1条7-3-10
TEL 011-621-4171

仙台支店
仙台市宮城野区福室2-8-21
TEL 022-258-0221

関東支店
埼玉県北本市朝日4-553
TEL 048-590-3700

名古屋支店
名古屋市千種区青柳町6-26
TEL 052-732-2600

大阪支店
東大阪市長田東3-3-11
TEL 06-6744-1041

東京支店
東京都港区芝2-31-19
TEL 03-3769-6840

広島支店
広島市西区南観音2-7-10
TEL 082-233-3201

福岡支店
福岡市博多区那珂5-3-15
TEL 092-411-1261

<https://www.banzai.co.jp>



ISO9001認証取得
ISO14001認証取得
日本ユネスコ協会連盟
会員として支援しています。

BANZAI NEWS

2026
Winter
337

特集
BANZAI NEWS

あらゆるカーオーナーに「安心」を
提供できるサービスショップへ



バンザイオリジナル卓上カレンダー2026付録付き



戸隠高原 雪の道 ————— 長野県
古より修験の地として知られる戸隠。今もなお神秘の気配を宿すこの高原は、四季折々に異なる表情を見てくれる。冬、森は静寂を深め、空は澄み渡り、遠くそびえる山々が凜とした輪郭を描く。

雪に覆われた一本道は、時を超えて続く回廊のようである。

★歳時記

1月	1日	元日
	7日	七草
	12日	成人の日
2月	3日	節分
	4日	立春
	11日	建国記念の日
	23日	天皇誕生日
3月	3日	ひな祭り
	17日	彼岸入り
	20日	春分の日



●目次

★新年のごあいさつ	①
★特集	
カーオーナーに「安心」を提供できる 持続可能なサービスショップとなるには?	②
【第4回】あらゆるカーオーナーに「安心」を 提供できるサービスショップへ	
★モデルショップ訪問	
【株式会社マイスター】 ポルシェブランドのハイエンドサービスを提供する マイスターな店舗とサービス工場、ここに誕生	⑥
【佐賀トヨタ自動車株式会社 本社・本店】 車をモチーフにしたデザインが目を引く、 佐賀トヨタ自動車株式会社 本社・本店の外観	⑩
★アウトメカニカ上海2025 EV先進国の整備機器を視察	⑯
★ショールーム	⑯
★ロータリー	⑰
★BANZAIガイド	㉑



あけましておめでとうございます

皆様にはお健やかに新年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。平素より格別のご愛顧を賜り、誠にありがとうございます。

昨年の日本経済は、人手不足がより深刻さを増し、多くの業界で労働力の確保や業務効率化が喫緊の課題となりました。また、生成AIをはじめとするデジタル技術の急速な浸透により、企業の業務プロセスやサービスのあり方が大きく見直され、社会全体で業務の進め方を見直す動きが広がった一年でもありました。さらに、インバウンド需要の回復が国内経済を支える一方、物価高の長期化によるコスト上昇が企業活動に影響を与えるなど、先行きの見通しが難しい環境が続き、私たちは変化に向き合う姿勢の必要性をあらためて痛感いたしました。

一方、自動車整備業界におきましては、OBD検査の定着により診断技術の高度化が本格的に求められる時代になりました。加えて、電動化や自動運転技術の進展が加速し、整備現場には従来とは異なる知識とスキルが必要とされる局面が増えております。弊社では、こうした変化に対応すべく最新の整備機器の拡充をはじめ、技術者の皆様を力強く支えるための研修・セミナーの開催、そして現場に役立つ情報提供を継続的に行い、業界全体の技術基盤の強化に努めてまいりました。

2026年バンザイインフォメーションのテーマは「変化を楽しみ、そして未来へ。変わらないもの Peace of Mind (安心)」です。自動車業界では、電動化と自動運転への流れが確実に進み、これから先もその歩みが止まることはないと考えられます。こうした流れの中で、訪れつつある大きな変化を悲観的にとらえるのではなく、新しい技術や価値観に出会う楽しさとして前向きに受け入れ、その変化を未来への希望に変えていくこそが、私たちの使命であり、業界の発展に寄与するもの信じております。そして、変わりゆく時代にあっても、皆様に“変わらない安心”をお届けすることを、今後も私たちは大切にしてまいります。本年も、より価値ある製品・サービスを提供し、皆様の整備事業に寄り添いながら、次世代モビリティ社会の進展を力強く支えてまいります。

末筆ながら、皆様のご健勝とご繁栄をお祈り申し上げますとともに、変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



株式会社 バンザイ
代表取締役社長 柳田 昌宏

カーオーナーに「安心」を提供できる持続可能なサービスショップとなるには?

第4回

あらゆるカーオーナーに「安心」を提供できるサービスショップへ

2025年の本誌バンザイニュース特集では、「過去=ICV(純内燃機関車)」「現在=HEV/PHEV(ハイブリッド車／プラグインハイブリッド車)」「未来=BEV/FCV(電気自動車／燃料電池車)」それぞれのカーオーナーに対しどのように「安心」を提供すれば、サービスショップの皆様が持続可能になれるかを、考えてきました。

当連載「カーオーナーに「安心」を提供できる持続可能なサービスショップとなるには?」最終回の今回は、これらの課題について、直近の状況も踏まえながら振り返りたいと思います。

BEV普及は急減速しICVの保有台数はなお高水準。だが…?

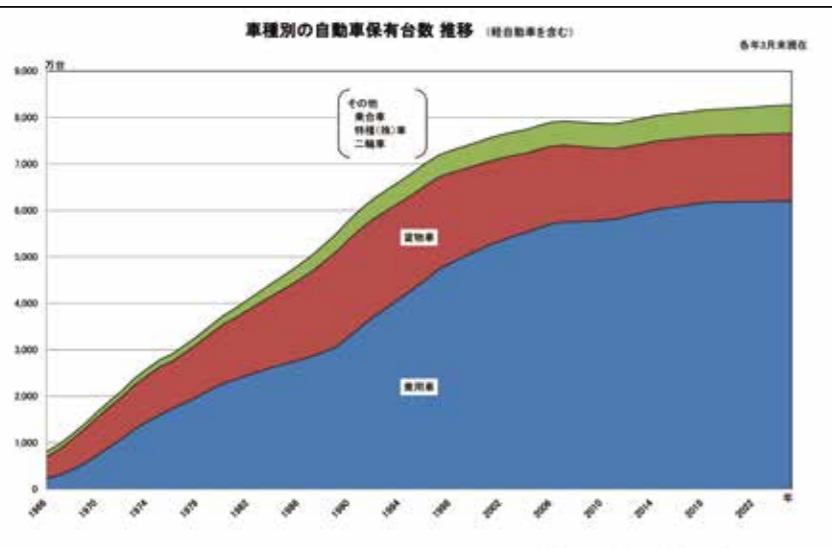
2015年9月に発覚したフォルクスワーゲングループによるディーゼルエンジン排ガス規制不正問題、通称「ディーゼルゲート」に端を発し、EU(欧州連合)と加盟各国の政府、日米欧の大手自動車メーカー各社は、それまで注力していたディーゼル車から電動車、特にBEV(バッテリー式電気自動車)をゴールとした環境規制対応にシフト。また中国でも、経済成長とともに大都市部などでの大気汚染の深刻化が進んだこともあり、政府主導でNEV(新エネルギー車。BEVのほかPHEV(プラグインハイブリッド車)とFCV(燃料電

池車)も含む)の開発・普及が強力に推し進められてきました。

その結果、BEVの技術開発と普及がまだ過渡期にあるにもかかわらず供給過剰になり、先進国はもちろんBEV普及を図る新興国でも販売競争が激化。そして2023年末には、ドイツでBEVへの補助金が終了したことをきっかけに、BEV全体の販売が急減速しました。なおEUは2021年、新車からの走行中CO₂排出量を2035年までにゼロとし、エンジン搭載車の新車販売を禁止する方針を決定していましたが、2025年12月16日にこれを見直し、2021年比9割減とし事実上撤回することを発表しています。

さらにアメリカでは、2025年1月の第2次ドナルド・トランプ政権発足後、世界各国への関税強化やBEV補助金終了、カリフォルニア州でのZEV(ゼロエミッション車。走行中に有害物質を排出しないBEVとFCVが該当)規制無効化を相次いで強行。中国では2025年末にNEV免税が終了し、日本でも2028年5月よりBEVとPHEVへの自動車重量税を加算する方針が2025年12月16日に打ち出されるなど、BEV普及を後押しするどころか抑制しかねない動きが世界各国で相次いでいます。

こうした情勢変化の影響を受け、それまでBEVのラインアップ拡大に注力していた自動車メーカー各社の業績が大幅に悪化。BEVへ



車種別の自動車保有台数推移(出典:自動車検査登録情報協会「わが国の自動車保有動向」)

あらゆるカーオーナーに「安心」を提供できるサービスショップへ

の投資を縮小して、製品ライアップのBEV一本化を中心し、新規エンジンの開発を再開、世界的に販売が好調なHEVのラインアップを拡充するなどの方針転換、経営陣の刷新や人員削減、工場閉鎖などの再建策が各社から発表されました。とりわけ新興メーカーも多く競争の激しい中国では、メーカー・ブランドの淘汰も進み始めています。

では、足元の日本ではどうでしょうか? サービスショップの皆様の経営に直結する、保有台数の推移を見てみましょう。

自動車検査登録情報協会が2025年10月20日に発表した令和7年(2025年)版「わが国の自動車保有動向」によれば、2025年3月末時点における全車種の保有台数は8269万8840台と、前年同時期の8256万8673台に対し13万167台増加。乗用車のみを見ても、2024年3月末時点の6197万8954台に対し、2025年3月末は6205万6197台と、7万7243台増えており、微増傾向が続いている。

しかし、乗用車の保有台数の推移をパワートレイン別に見ると、近年はICV(純内燃機関車)の保有台数が毎年約100万台ずつ減少し続けている一方、HEV(ハイブリッド車)は毎年約100万台ずつ増加。PHEV、BEV、FCVはICVやHEVと比べて小規模かつ波があるものの、基本的には増加傾向にあることが見て取れます(詳細は別表)。

とはいえ、乗用車保有台数に占めるICVの割合は、直近のデータでも77%強と高く、HEV&PHEVは22%強、ZEV(BEVとFCVの合計)は4%弱と、ICVには遠く及ばないのが実情です。また、世界的に販売が好調なHEVも、コス

パワートレイン別 乗用車保有台数(各年3月末時点)

年	総計	ICV	HEV	PHEV	BEV	FCV	CNG	メタノール
2015	60,517,249	55,779,452	4,640,743	44,012	52,641	150	247	4
2016	60,831,892	55,210,220	5,501,595	57,130	62,136	630	177	4
2017	61,253,300	54,633,711	6,473,945	70,323	73,380	1,807	131	3
2018	61,584,906	53,978,180	7,409,635	103,211	91,359	2,440	78	3
2019	61,770,573	53,208,160	8,331,443	122,008	105,921	3,009	30	2
2020	61,808,586	52,406,171	9,145,172	136,208	117,317	3,695	21	2
2021	61,808,586	51,665,467	9,862,987	151,241	123,708	5,170	11	2
2022	61,917,112	50,966,813	10,630,750	174,231	138,327	6,981	8	2
2023	61,867,152	50,042,262	11,447,604	207,578	162,389	7,310	7	2
2024	61,953,135	49,056,558	12,444,651	252,552	191,615	7,748	8	3
2025	61,978,954	47,970,532	13,498,256	287,352	214,514	8,289	8	3

パワートレイン別の乗用車保有台数推移(出典:自動車検査登録情報協会「わが国の自動車保有動向」)



2025年10月に発売された新型日産ルークス(左)と三菱eKスペース／デリカミニ(右)。先代はマイラードハイブリッドを全車に搭載していたが、新型ではICVのみとなっている



トとパッケージング上の制約が厳しい軽自動車では、一部車種でフルモデルチェンジの際に設定が廃止されるなど、必ずしも全てが電動化に進むわけではない動向を見せ始めています。

しかしながら、日本における少子化と高齢化はいずれも2005年以降世界一高い水準で、かつ人口減少は政府の想定より早く進行しています。また、大規模な異常気象と自然災害が、日本を含む世界各国で頻発するようになっているため、保有台数と顧客の減少、そして地球温暖化の回避に向けた電動車の普及は、緩やかながらもやがて訪れる確定した未来と言えるでしょう。

つまり、サービスショップの皆様、とりわけ幅広いブランド・車種が入庫する専業・兼業の皆様は、ICVへの対応に引き続き重点を置きつつ、今後徐々に入庫が増えていくであろうHEV・PHEVやZEVへの備えも、着実に拡充していく必要があると考えられます。

技術の進化と細分化が進む傾向は収益の柱である消耗品も変わらず

自動車の技術革新は、これらのパワートレインや、2016年9月にダイムラーが提唱した「CASE」(=Connected (コネクテッド)、Autonomous (自動運転)、Shared & Services (シェアリング)、Electric (電動化))といった先進分野のみならず、ありとあらゆる領域で今なお進行しています。そしてそれは、ICV向けかどうか、また年式の高低を問わず、消耗品の分野においてもまた同様です。

とりわけ多くのサービスショップの皆様にとって大きな収益源であろうオイルとタイヤは、適合車種や走行ステージの細分化を伴うバリエーション拡大が進んでいます。

まずオイルの中でも新車向けエンジンオイルに関しては、フリクション低減による燃費改善を主眼として推奨オイルの低粘度化が進み、2019年にはSAE 0W-8および0W-12という超低粘度のガソリンエンジン用オイル規格「JASO GLV-1」が制定されました。

しかし、現実的なコストの範囲内で省燃費性能とエンジン保護性能の向上、適合車種拡大を兼ね備えるべく、SAE 0W-16および0W-20を対象とした「JASO GLV-2」という新たな規格が2024年3月に制定されています。今後この規格に適合したエンジンオイルが発売され普及が進めば、0W-16または0W-20が推奨されている既存車種のエンジンにも、より低燃費なオイルとして幅広く活用できること

でしょう。

一方、1990年代以前の車両では、こうした低粘度オイルがエンジン保護性能の観点から適さないため、密閉性などの面で有利な鉱物油をベースとしたクラシックカー向けエンジンオイルが、各オイルメーカーから販売されています。

タイヤについては、SUVがセダンに取って代わる形で普及したことにより、特にSUV向けタイヤでは、対応する走行ステージや車格がより一層細分化されるようになります。

またエンジンオイルと同様に、1990年代以前の車両に適したサイズ、グリップ、トレッドパターンを備える、過去の銘柄が復刻販売されるケースが増えています。

さらに、非降雪地帯でも積雪の頻度・強度が高まっていることから、近年は各タイヤメーカーが新開発のオールシーズンタイヤを積極的に投入しています。

補機バッテリーに関しては、当面の間は鉛バッテリーが主流の時代が続くと見込まれるもの、鉛バッテリーメーカー以外の部品メーカー各社でこれに取って代わる、あらゆる面で高性能かつ交換サイクルが非常に長い、リチウムイオンバッテリーの開発が進んでいます。すでに市販車への搭載事例も出始めており、今後コストが下がり普及が進めば、補機バッテリーの交換需要が極めて限られたものになると見込まれます。

なお、電動車の整備においては、回生ブレーキを備える車種では摩擦ブレーキの使用頻度が激減するため、ブ

レーキまわりの交換サイクルが非常に長くなります。一方、モーターサイズと駆動用バッテリーの搭載量に応じて車重が重くなるため、ボディサイズ・タイプが同等であればICVよりもHEVやFCV、それよりもPHEV、そしてBEVが最も重くなる傾向にあります。

つまり、タイヤに対し、重い車重とモーターの大トルクによる負荷が大きくかかるうえ、モーター走行時の高い静肃性、低い転がり抵抗による航続距離拡大も同時に求められるため、交換サイクルは短く、かつ大径の専用タイヤが新車採用されやすい傾向にあります。

これらは部品単価が高く交換作業の難易度も高いため、作業時の損傷リスクが低いタイヤチェンジャーやホイールランサーが不可欠です。しかし交換頻度は高く、工賃も難度相応となるため、今後電動車、特にBEVの普及が進めば、収益拡大が見込めます。

またBEVではICVより車重が2割以上重くなる傾向にあるため、取り扱い車種によっては能力4tクラスのリフトや、駆動用バッテリーの脱着に適したリフターも必要になるでしょう。

社会情勢もクルマ自体も、近年ますます目まぐるしい速度で「変化」を続けており、これを支える自動車整備用機器も、いち早く「変化」することが求められています。しかし、どれほどこれらが変わろうとも、カーオーナーがサービスショップの皆様に求めるのは、いつの時代も「安心」です。



BYDが2025年12月に日本導入した「シーライオン6」(左)は駆動用と補機双方にLFP(リン酸鉄リチウム)バッテリーを採用。右は12VLFP補機バッテリーと同鉛バッテリーの比較



広い作業スペースが必要なPHEVやBEVの駆動用バッテリーも脱着しやすい埋設式アームを持つ能力4tの「タンデムリフト」



鉱物油ベースのクラシックカー向けエンジンオイル「モチュールクラシック SAE50」「同20W-50」



横浜ゴムがプレミアムBEV向けとして開発したサマータイヤ「アドバンススポーツEV」

バンザイはこの「変化」をチャンスにつなげ、「安心」という不变かつ普遍的なカーオーナーのニーズに応え続けるサービスショップの皆様を、今後とも全力でサポートして参ります。新年もさらなるご愛顧を、心よりお願い申し上げます。



整備ストールへの導入を想定したCHAdeMO規格対応の中容量急速充電器「HFR1-15B11」

ポルシェブランドのハイエンドサービスを提供する マイスターな店舗とサービス工場、ここに誕生



ポルシェセンター北大阪ショールーム外観



ポルシェのストーリーを演出する洗練されたショールーム

コンセプト映像を流す大型スクリーンと
ポルシェ認定中古車の展示車両
パナメーラ GTS

設立25年目の店舗全面刷新と サービス工場の移転・新築

株式会社マイスター モータースは、大阪市で新車販売拠点、中古車販売拠点各2店舗を展開するポルシェ正規ディーラーです。同社設立は2001年、それ以前からポルシェ販売に携わってきた経験を踏まえ、関係会社の合併により、同社が誕生。初代社長に柴田恭一郎氏が就任しました。現社長の柴田剛志氏の入社はその4年後のことです。それまで東

西日本の経済圏の中心地、大阪の市場でポルシェの正規ディーラーとして車両販売とサービスを展開する株式会社マイスター モータースは、箕面の拠点を全面リニューアル。新CIに準拠するとともに、ショールームとワークショップ（整備工場）を共に拡張するなど、サービス体制の強化を図りました。同社の、まさにマイスター（職人の最高位ステータス）な店舗とサービス工場をレポートします。

代表取締役社長
柴田 剛志 氏アフターセールス本部
本部長
吉谷 征則 氏

ブラックをベースに赤いポルシェのロゴが映えるサービス工場外観

京のBMWディーラーでメカニックをしていた剛志氏は、2005年にマイスター モータース入社の打診を受けました。「当時、仕事が楽しかったので、相当悩みました」と剛志氏。熟考を重ねて入社を決断。サービスアドバイザーの役職からキャリアをスタートさせました。「社長の息子」と言われないよう、人一倍仕事をこなし、社内の信頼を得ながら社内改革を行ってきました。その結果、世界のポルシェ販売の伸び率を上回るペースで成長しました。2015年に社長就任。メカニック出身の視点で会社作りをし、社名のとおり、まさにマイスターな企



ドライビングシミュレーターを2基導入。エクスペリエンスを重視したショールームづくり



ポルシェブランドアパレルコレクションの販売エリア



商談スペースのコンサルテーションオフィス



納車式などを執り行うデリバリーエリア



ボディカラーやインテリアなどを提案するフィッティングラウンジ

業を作り上げていきます。

今般、同社では著しく発展を遂げている大阪北摂地域の箕面市の拠点を全面リニューアル。ポルシェの新CIに準拠した新たなショールームに加え、サービス工場の移転・新築を行いました。工場は2024年4月に開設、新ショールームは2025年8月にオープンしました。

ショールームにはポルシェ各モデルの走りを体感できるドライビングシミュレーターを2台設備。顧客満足（CS）には、体験を含めたCX（Customer Experience）の要素を取り入れ、さらに販売台数を伸ばし続けています。

サービスが2台目を売る営業フィロソフィー 生産性と効率性を重視するサービスの実践

柴田剛志社長の「2台目はサービスが売る」などの営業信条で改革を行い、着々と販売台数を拡大させてきました。それに伴い、サービスの入庫も増加。そこでサービス工場の拡張を検討していましたが、条例により、従来の敷地では工場面積を拡大することができず、近隣で条件が整う立地を見つかり、ワークショップの新築に至りました。現在の入庫は月間約250台。この5年間で1.5倍超の増加です。

「営業宛の電話は『試乗したい』『現車を見たい』『カタログが欲しい』とかポジティブなんです。一方、サービス宛の電話は、「エアコンが効かない」や「異音がする」などネガティブな話しから始まります。そこを我々サービスがいかにプラスに出来るかが重要だと思っています」と柴田剛志社長。「2台目はサービスが売る」というフィロソフィーを長年かけて現場に浸透させてきました。また、柴田剛志社長は予約管理を抜本的に見直した上で、サービスについては「ミスなく丁寧に作業することは当たり前、そのうえでスピードと効率性」を求めていました。

そうした経営哲学を実践する柴田剛志社長が選んだ自動車整備機器はメカニック出身のシビアな視点が反映されています。

「近年、ポルシェは車体が大きくなるとともに、大径ホイール化が進んできました。リフト使用時にホイールを傷つけないよう、メカニックは気を使います。メカニックのストレス軽減、事故リスクの低下を第一にフルフラットタイプのリフトを選定しました。コストはかかりますが、それは投資と考えています」（柴田剛志社長）。また、検査ラインは最新の設備を導入するなど、安全と効率性を重視した整備機器が選定されました。



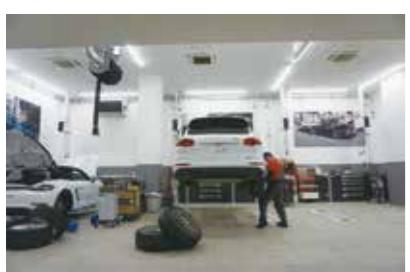
サービスフロントもくろぎの空間



サービスフロントの受付



サービス工場の内観。コントロールルームをガラス張りにしたことで、メカニックが適度な緊張感で整備作業に臨むようになり、作業効率を向上



6ストールにバスカルリフトフラットアームワイドをEVの専用ストール。電動カーテンを設備し、高電圧作業の整備に対応



4WDやホイールベースが長いポルシェに最適なスーパーマルチスターを採用した検査ライン



ユーザーとサービスアドバイザー、そして車両が直接対話するダイレクト・ダイアローグ・ベイ(DDB)。顧客がサービスプロセスに参加することで信頼関係を構築

ポルシェクオリティを追求し、ハイエンドサービスを提供する新作業場

約500坪の敷地に移転・新設したサービス工場は洗練されたデザインの外観とラグジュアリーな受付、そして最新の設備がマッチングした整備作業場を具現化。まさにハイエンドなサービスの提供に相応しいワークショップが完成しました。1階と2階を整備作業場として使用するワークショップは1階に9ストール(検査ライン含む)、そして2階に1基のリフトを設備するなど、設備の増強を図りました。この他、リフト未設置の2ストールを含めると、将来の拡張も視野に入れた工場レイアウトが実現しています。

アフターセールス本部、吉谷征則本部長は「旧工場は作業のレイアウトの問題で、現場のコミュニケーションなどに非効率な面がありました。新サービス工場はテクニシャン(メカニッ



ハイエンドサービスを提供するに相応しいサービス工場のデザイン



6ストールにバスカルリフトフラットアームワイドをEVの専用ストール。電動カーテンを設備し、高電圧作業の整備に対応



ユーザーとサービスアドバイザー、そして車両が直接対話するダイレクト・ダイアローグ・ベイ(DDB)。顧客がサービスプロセスに参加することで信頼関係を構築

ク)の高い技術力を最大限に引き出す設備と工場レイアウトで効率化を進めました」と、作業性と生産性の向上に力点を置いた工場づくりを行いました。

また、タイカンやマカンといったEVモデルのラインナップが増える中、EV対応として、専用ストールを導入しました。駆動系バッテリー交換を見据えるとともに、重量化するボディ、様々な車型に対応できるよう、リフトはバスカルリフト フラットアームワイド(能力4トン)を採用しています。この他、ユーザーとともに受け入れ・問診を行うダイレクト・ダイアローグ・ベイ(DDB)を専用ストールで本格導入。さらなる満足度の向上を図る態勢を整えました。

「お客様にはポルシェを所有する喜びをご提供していきたいです。そのための接客、空間づくり、サービスであると考えています」と柴田剛志社長。新たな店舗とワークショップの新体制でポルシェクオリティはさらに高みにあがった。

店舗概要

■所在地:大阪府箕面市萱野2-4-10 ■電話番号:072-725-0911 ■店舗設立:2025年8月

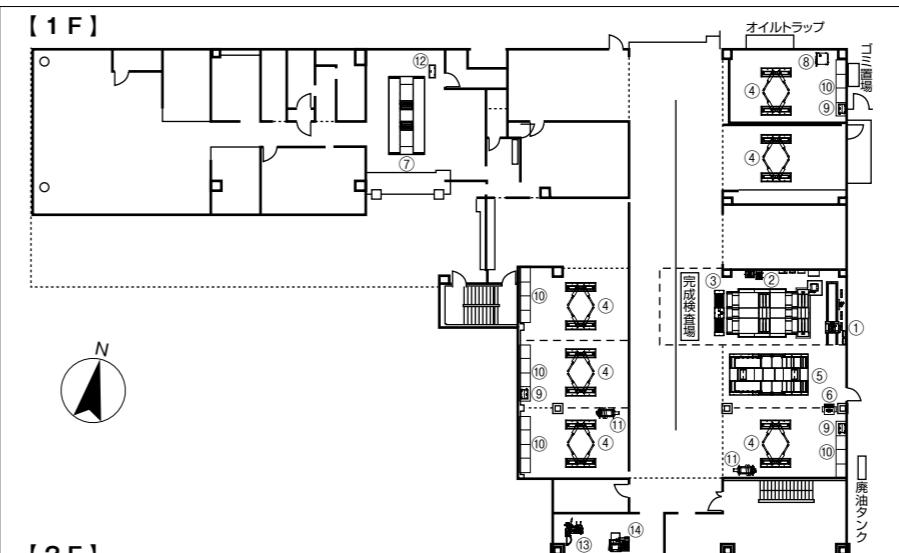
工場概要

■所在地:大阪府箕面市西宿2-22-7 ■電話番号:072-725-0912 ■店舗設立:2024年4月

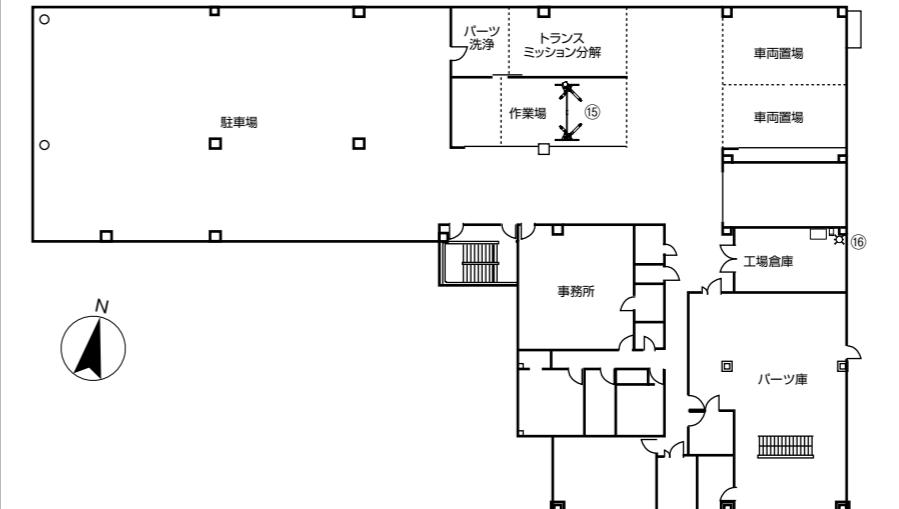
■スタッフ数:21名(うちメカニック7名)

■店舗面積:1,718m²(延床面積) ■工場面積:2,342m²(延床面積)

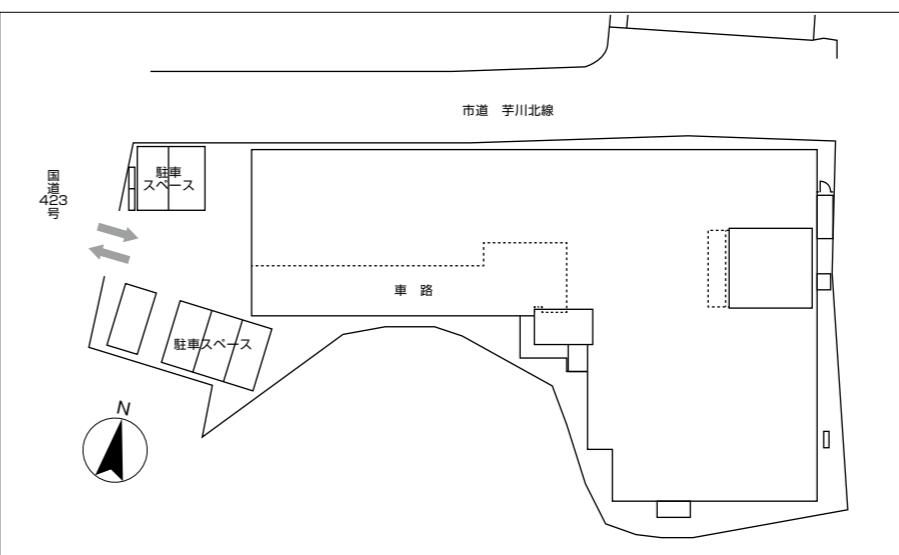
■工場レイアウト詳細



[1F]



■店舗全体図



(この記事に関するお問い合わせは最寄りのバンザイ支店又は事業所までご連絡ください。)

■設備一覧

- ①画像手動式ヘッドライトテスター
- ②スーパー・マルチテスター
- ③サイドスリップテスター
- ④バスカルリフト
(フラットアームワイドFK付)
- ⑤フラット・ワークステージX
(アライメント仕様)
- ⑥ホイールアライメントテスター
- ⑦フラット・ワークステージX
- ⑧温水洗車機
- ⑨ドレンボックス
- ⑩キャビネット
- ⑪電動式排気ホースリール
- ⑫埋設排気ボックス
- ⑬レバーレスタイヤチェンジャー
- ⑭ホイールバランサー
- ⑮ゲートリフトIV
- ⑯パッケージコンプレッサー
- 補助タンク
- エアードライヤー

車をモチーフにしたデザインが目を引く、 佐賀トヨタ自動車株式会社 本社・本店の外観



車をモチーフにしたデザインが目を引く、佐賀トヨタ自動車株式会社 本社・本店の外観。



本店ショールームの屋根は西側の端をひさしとして活用。8台が駐車可能で、来場客が雨に濡れないよう配慮している。



本店ショールームの東側に2台分の納車スペースを完備。傷などがないか確認しやすいよう片方の壁面に鏡を設置した。

本店
店長
新郷 利信 氏本店 副店長
サービスマネージャー
野中 靖史 氏

店舗入口に通常の駐車スペースとは別にEV向け充電器を2台用意。充電器の向かいには充電待ち用の待機スペースも用意。

車をモチーフにした新本社・ショールームは居心地の良さも追求

1938年11月に設立された肥前トヨタ自動車販売株式会社をルーツとし87年もの歴史を持つ前・西九州トヨタ自動車株式会社（以下、西九州トヨタ）、と、1979年6月にトヨタオート福岡より分社・設立されたトヨタオート佐賀株式会社をルーツとする前・ネットトヨタ佐賀株式会社。両社が2022年4月1日に合併し誕生したのが、現在は佐賀県内に18店舗を構える佐賀トヨタ自動車株式会社（以下、佐賀トヨタ）です。

同社の本社・本店は、西九州トヨタが現在と同じ佐賀トヨタという社名だった1963年より本拠とし、歴史もある大規模拠点です。しかしその分「老朽化が進んだため、合併の直前

より、新築の計画を約2年間かけて進めました」（新郷店長）。

その後さらに3期もの工事を経て完成した本社新社屋の外壁には車のフロントグリル、本店ショールームの屋根には車体側面の流線形をモチーフとしたデザインが与えられ、遠くから見ても人目を引く、明るく個性的でモダンな装いに生まれ変わりました。

本店ショールームの室内も、木材を多用し窓ガラスを大きく取ることで、明るく落ち着いてくつろげる空間を演出。各テーブルにはモニターを配置して、商談のほか新車やサービスメニューの紹介にも活用できるようにしています。

また、従来は建物が東西に分かれていた商談スペースとサービス待合室を1つの建物に集約し、幅広いお客様への



流線形の屋根に沿って角材を並べ、道路側は全面ガラス張りとした、明るくモダンな商談スペース。各テーブルにはモニターを配備したほか、完全個室（右）も用意している。



サービス入庫客の受付と待合室は本店ショールーム内のサービス工場側に配置。1人から家族連れまで幅広く対応できるよう様々なタイプの席とキッズルーム、授乳室を完備。



本店サービス工場の北側には「タンデムリフト35」を6基配備しクイック整備に対応。



フラットキット付きリフトを多数導入し安全な作業環境を構築

明るくモダンに生まれ変わったのは、本社新社屋や本店ショールームだけではありません。本店サービス工場と本社新車棟も、野中マネージャーが以前担当していたレクサス店のノウハウを活かし、キャビネットは黒、外壁は上側、内壁は下側を濃いグレーで統一するなど、「シックにまとめてお洒落な工場にしました」（野中マネージャー）。

そして、従来は二つに分かれていた空間をワンフロア化し、面積を約2倍に拡大した本店サービス工場には、能力3.5tの埋設シリンダーリフト「タンデムリフト35」スライドプレート／アーム垂直上昇型フラットキット付きを6基、ショールームに近い北側に設置して、主にエンジンオイル交換などのクイック整備に用いています。

6mの幅が確保された通路を挟んで南側には、能力3.0tの「タンデムリフト」フラットアームワイド型・フラットキット付きを3基配備したほか、能力5.0tのXリンク式ドライブオンリフト「フラットワークステージX」フラットキット&ピットジャッキ付きと、能力5.5t+5.5tの2柱式リフト「キャタピラツインII・ミニ」を各1基配置し、ボディサイズ・形式を問わず様々な車両の車検整備や重整備に対応。とりわけ「キャタピラツインII・ミニ」は、「従来は平場でジャッキを使い、マイクロバスの『コースター』



車検ストールには「ネットワークイージープラス」を導入し検査結果の記載ミスを防止。



本店サービス工場の南側には「タンデムリフト30」を3基配備。車検整備や重整備を担う。



幅広い車種に対応する能力5.0tの「フラットワークステージX」。キャビネットは黒で統一し美観を追求。



能力5.5t+5.5tの「キャタピラツインII・ミニ」はトラック・バスの整備効率向上に大きく貢献している。



洗車場には2つのサービス工場を隔てる通路からアクセス。門型洗車機「エミネントデルタII」で洗った車両は隣のスペースで拭き上げる。



各ストールにエアコンを完備し、猛暑の夏場でもメカニックが快適に作業できるよう配慮し、メカニックからも好評

を整備していたので、作業性は全然違います。当店は本店で『コースター』をお持ちの法人客が多いため、特に効果は大きいです」（野中マネージャー）と好評です。

さらに車検機器も一新し、「ネットワークイージープラス」を導入。「手書き作業がなくなりミスが減った」点を特に高く評価されています。

そのほかエアコンを完備し、本店サービス工場の出入口にはシートシャッターを備えるなど、バリアフリーかつ快適な作業環境を構築。「以前よりメカニックの人数は減っているものの、約1.3倍の利益を確保できている」（新郷店長）という同店は、佐賀市の新たなランドマークとして今後ますます注目されることでしょう。



屋根付きの手洗い洗車スペースも別途用意。



サービス工場全景。写真左側が本店サービス工場、右側が本社新車棟。前者の出入口にはシートシャッターを導入し空調効率をアップ。



新車整備を担う本社新車棟は大半が平場だが、エアロパーツやホイールなどを装着するため「タンデムリフト」を1基導入している。

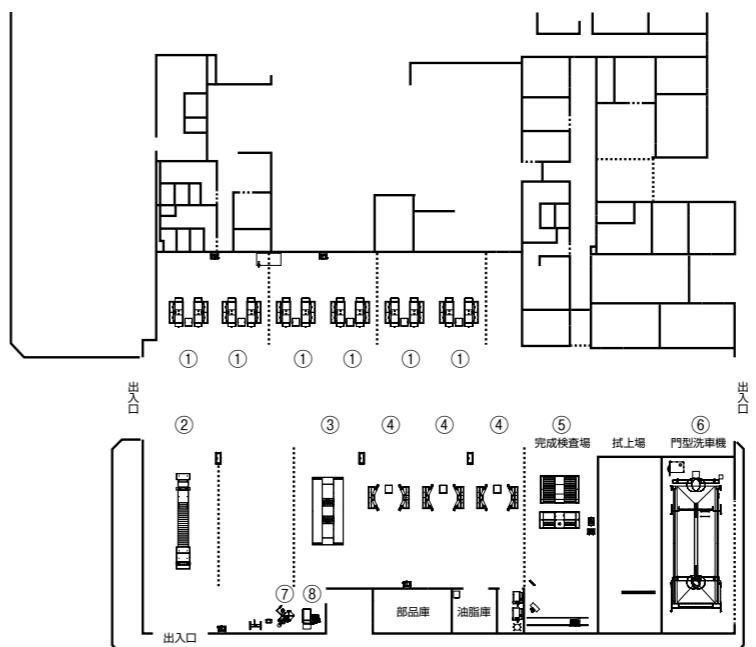
店舗概要

多種多様な取り扱い車種に対応するため能力・タイプの異なるリフトを使い分け

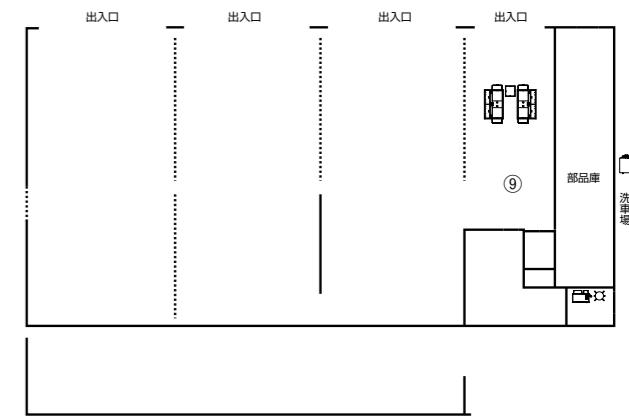
- 所在地：佐賀県佐賀市嘉瀬町大字扇町2480
- 電話番号：0952-24-4177
- 店舗設立：1963年3月
- スタッフ数：本店20名（うちメカニック9名）、本社新車棟メカニック8名
- 敷地面積：417坪（1,377m²）
- 工場面積：285坪（941m²）

工場レイアウト詳細

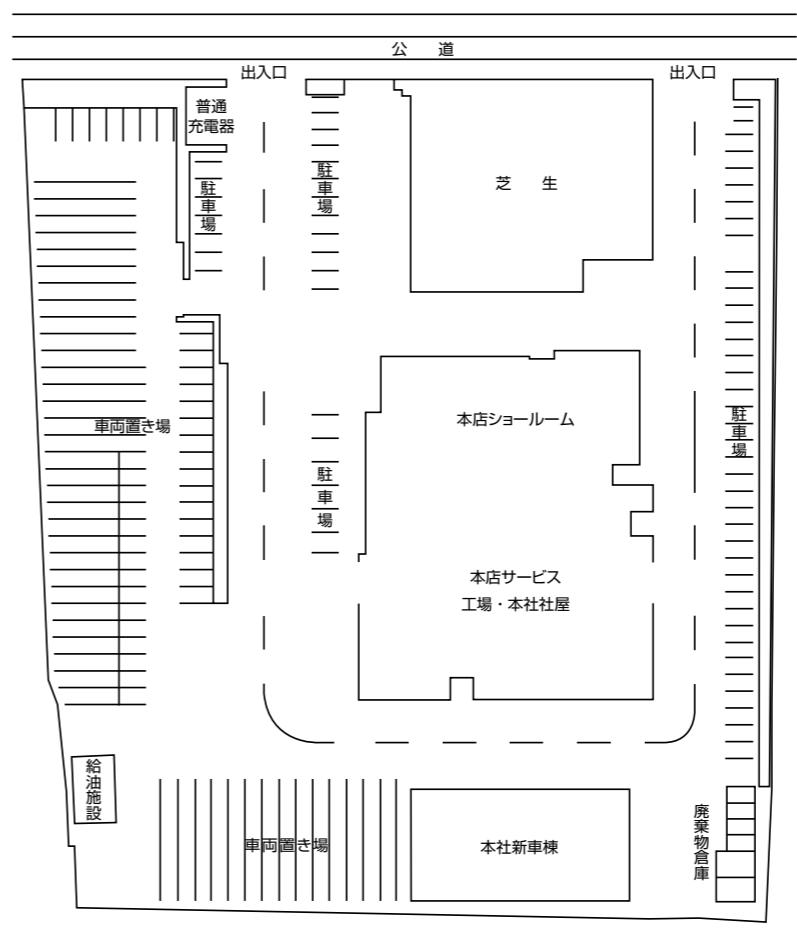
○本店サービス工場



○本社新車棟



店舗全体図



設備一覧

【本店サービス工場】

- ①タンデムリフト35
- ②キャタピラツインII・ミニ
- ③フラットワークステージX
- ④タンデムリフト
- ⑤ネットワークイージープラス
ヘッドライトスター
トリプルテストスター
固定式フリーローラー
- ⑥門型洗車機 エミネントデルタII
- ⑦タイヤチェンジャー アスリートII-S
- ⑧ホイールバランスサー TRIM

【本社新車棟】

- ⑨タンデムリフト35

アウトメカニカ上海 2025 EV 先進国の整備機器を視察

REPORT

アジア最大級の自動車産業見本市「第21回 アウトメカニカ上海2025」が2025年11月26日(水)から29日(土)の4日間にかけ、中国の上海で開催されました。出展社数7,465社、来場者数25万3,691人は過去最高を記録し、規模では本場ドイツ・フランクフルト開催に匹敵する見本市です。

今回、日本自動車機械工具協会の視察団として、株式会社バンザイから6名が参加し視察を行いました。



アウトメカニカ上海の会場「National Exhibition and Convention Center」。



全15ホール、延べ38万m²の広大な会場。

ロボットによる展示説明。

■ EV 関連 バッテリーリフター

上海市におけるNEV（新エネルギー車）の新車販売は2024年で68%に達し、中国全土の平均を上回っているといわれています。一般乗用車のEV普及も想像以上に多く、市内にある販売店の展示車両もEVが主体です。そのEVでは、駆動用バッテリーのメンテナンス需要が見込まれ、バッテリーリフターが重要な整備機器と注目されています。



能力 1.5t の電動油圧のバッテリーリフター。

無線での操作を可能とするバッテリーリフター。



■ タイヤ関連機器

洋の東西を問わず省力化や省スペース化は自動車整備のトレンドのようです。YINGKOU HANWAY社のブースに展示されたタイヤチェンジャーとバランスサーを一体仕様とする機器は、作業の迅速化を促すとともに、作業者の負担軽減に繋がる機器として注目を集めています。

また、同社ブースでは近年輸入車ディーラーを中心にお目を集めているホイール洗浄機の実演と展示も行われていました。洗浄機にはタイヤリフターも搭載されており、タイヤのセッティングも楽々です。



タイヤチェンジャーとホイール YIINGKOU HANWAY社のホイール洗浄機。

また、作業者の負担軽減として、今や必須の整備機器ともいえるタイヤリフターの出品も多く、人手不足に伴う省力化ニーズの高まりとともに、国内整備事業者への導入の必要性を痛感しました。



大径化が進むタイヤ市場にあり、タイヤリフターの需要は拡大。

■ アライメントテスター

ADASの高度化による適切なホイールアライメントの診断と調整のニーズは高まり、中国国内におけるホイールアライメント市場は2025年時点で約150億元(約3,000億円)規模に達するとのデータがあります。アライメントテスターはロボティクス化が著しく、中国メーカーの躍進もあり、低コスト化が進んでいます。



LAWRENCE 社による ADAS エーミー LAUNCH のアライメントテスティングとの統合ソリューション。X631。



EAE 社の 3D アライナー。TechnoVector の非接触型アライメントテスター。

■ リフト関連機器

海外における近年のリフトのトレンドは、NEV（新エネルギー車）への対応、グリーンリペア（環境配慮型整備）です。また海外市場ではSDVの普及が進んでおり、次世代シャシーに対応する、車両の重量バランスやシャシー構造に合わせた、より高精度で安全な支持が可能なリフトが台頭しつつあります。

その中で、特に印象に残ったリフトはBONUM社の多関節アームの2柱リフトです。EV対応として、アームが車体下部のバッテリーパックに干渉せず、ジャッキポイントにリードできるため、EV整備の効率化に寄与します。



BONUM 社の多関節アーム 2柱リフト。



EAE 社のモバイルコラムリフト。2柱リフト用タイヤ受けアタッチメント (EAE 社)。

仕入れ先企業も出展

● 中大三協汽車裝備有限公司（三協リール）



TRIENSブランドでおなじみのリールメーカー、三協リールの中国法人中大三協汽車裝備有限公司のブースでは3Dプリンターで製作されたカバーをまとった日本未発売のリールボックス（画像右）がスタイリッシュなデザインをアピール。

● WAS INC (ワーズインク)



自動車整備の輸入商社ワーズインクは中国市場向けにDPFクリーナーと洗浄剤（画像右）を訴求。

● 上海光和有限公司（興和精機）



OBD検査のスタートによりPCを置くシーンが増加しています。同社が製造するPCカート（画像右）は今や作業場に不可欠なツールのひとつになりました。

● マサダ製作所



油圧機器メーカーのマサダ製作所は、世界市場を見据えた広範なビジネス機会を求め、マサダブランドを訴求しました。

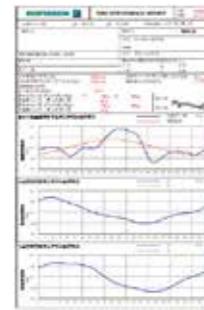
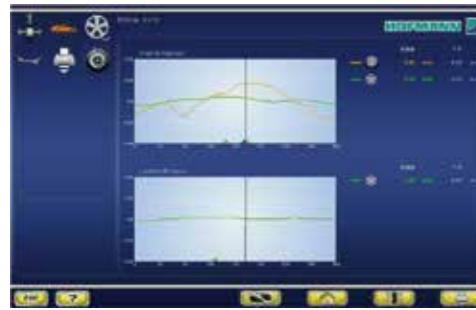
[ホイールバランス]GEO-8200-2P

ランアウト測定が可能な後継機!
新型ホイールバランスが登場!

- 19インチのタッチモニターを採用し、操作性と視認性が良好
- レーザーとソナーが搭載されておりホイールデータが全自动入力

【ランアウト測定】

ランアウト測定モードで測定することによりホイールとタイヤの真円度を読み取り形状ユニフォミティ(均一性)の測定が可能



【マッチング有効度】

ランアウト測定の結果を基にホイールとタイヤの形状マッチングをしてアンバランスが改善されるか自動で判定



仕 様

測定対象ホイール	ホイール径 (inch)	14~ 26(8-32) ※ 1
	ホイール幅 (inch)	3~ 15(1-20) ※ 1
	最大重量 (kg)	70
対 応 車 種		乗用車、ライトトラック、二輪車
測 定 回 転 数(rpm)		約 200(50/60Hz)
最 小 表 示 単 位(g/オンス)		1 / 5
入 力 方 法	ディスタンス ホイール径 ホイール幅	自動入力 / 手動入力
最 大 タ イ ャ 外 径(mm)		1,050
メ イ ン シ ャ フ ト 径(mm)		40
ラ ン ア ウ ト 测 定		ラジアル、ラテラル(リムのみ)
電 源(V、Hz)		AC100、単相 50/60
本 体 尺 法(mm)		W1,270×D1,015×H1,545
本 体 重 量(kg)		165

※ 1: () 内は手動入力での測定対象範囲です。

[キャニスター・チェック]CCN-1A

チャコールキャニスターの点検精度を向上させた
キャニスター・チェックが新発売!

●圧力計が改良!

- ・MPa表示の圧力計をkPa表示の圧力計へ変更
- ・最小表示圧力が0.1kPa(従来は1kPa)となり、より精密な点検(通気確認)が可能
- ・電源ボタンの長押しで数秒間バックライトが点灯
- ・圧力計の表示を回して外すだけで簡単に電池交換が可能

●各接続部が改良!

- ・接続ホースをバンド止めからカシメへ変更
更に点検精度が向上

仕 様

型 式	CCN-1A
駆 動 方 式	エアー
エ ア ー 圧 (MPa)	0.5~ 1.0
本 体 尺 法 (mm)	W370×D160×H280
重 量 (kg)	約 3.5
構 成 品	①キャニスター・チェック本体 ②フューエルキャップアダプター ③接続ホース



[エヌエス・ポンパー]NSP-1

あきらめかけていたブレーキキャリパーのオーバーホールに!

●水圧によるキャリパーピストンのオーバーホール新工法

●固着が激しいピストンに威力を發揮

- ピストンの飛び出し、ブレーキフルードの飛び散りが無い
優れた安全性

●エアーも電源も不要! 使うのは『水』だけ

仕 様

本 体	
サ イ ズ (mm)	W320×D200×H250
重 量 (g)	約 2,580
材 質	ハンドル: ゴム・メタル ポンプ: 真鍮・メタル ケース: ポリプロピレン 水圧計: メタル
ケ ース 容 量 (L)	4.5
耐 圧 性 能 (MPa)	使用: 5(限界 10) 圧力計 0~ 10
環 境 性 能	水のみ ※オイル等使用不可



[バッテリー駆動搭乗式自動床洗浄機]スクラブメイト F110・GT70

バッテリー駆動で簡単、安全に操作が可能!
しっかり洗浄で作業者の負担も軽減されます

- F110はクラス最速の最大6.5km/hと
クラス最高の5,330m²/hの洗浄能力を備えています
- GT70はコンパクトで取り回しが良く
狭いエリアでもスムーズに作業ができます
- わかりやすい操作パネルで誰でも簡単操作
- 接地圧が調整可能でしっかり洗浄ができます
- 「ECOモード」搭載で長時間&静音稼働が可能



スクラブメイト F110



スクラブメイト GT70

仕様

型 式	F110	GT70
洗淨面積 (m ² /h)	最大 5,330	最大 2,250
洗淨幅 (mm)	820	560
パッドサイズ (インチ)	16 × 2枚	20 × 1枚
スクイジー幅 (mm)	1,130	725
走行速度 (km/h)	最大 6.5	最大 4.5
モーター出力 (W)	650	300
ブレード数 (個)	2	1
ブレード回転数 (rpm)	155	140
接地圧 (kg)	最大 75	最大 23
モーター出力 (W)	500	
バキュームモーター出力 (W)	400	310
旋回必要通路幅 (mm)	2,120	1,680
清水タンク容量 (L)	110	70
洗剤ボトル容量 (L)	3.2	—
回収タンク容量 (L)	110 ※	70
バッテリーコード数	6V260Ah (20HR) × 4個	シールドバッテリー 12V108Ah (20HR) × 2個
満充電時の運転可能時間 (h)	最大 2.5 (ノーマルモード) 最大 4 (ECOモード)	最大 3 (ノーマルモード) 最大 4.5 (ECOモード)
必要充電時間 (h)	最大 16	最大 12
本体寸法 (mm)	全長 1,650 × 全幅 990 × 全高 1,300	全長 1,315 × 全幅 640 × 全高 950
重量 (バッテリー含む) (kg)	385	178

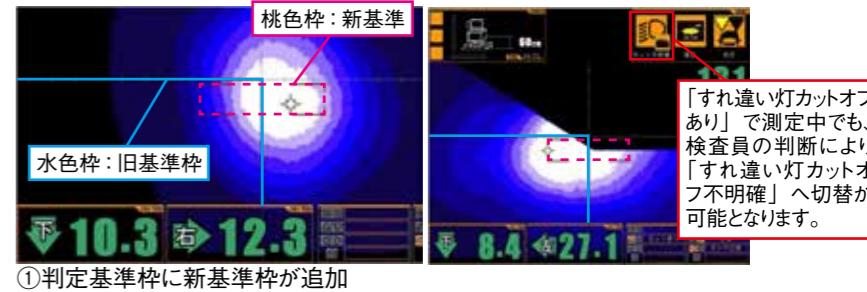
※ 90L でフロートが作動します。

[57次改正対応バージョンアップキット]ヘッドライトテスター HT-538/542/519

ヘッドライトテスター「HT-538/542/519シリーズ」の外観や構造の変更なく、
メインPC内のソフトに機能(①～③)が追加されます。(オプション)

①審査事務規定第57次改正の測定ロジックを追加

- 従来の「すれ違い灯カットオフなし」の判定基準枠に新基準枠を追加
- 「すれ違い灯カットオフあり」の測定モード中でも、左右灯ごとに測定モードを「すれ違い灯カットオフ不明確」→「すれ違い灯カットオフあり」へ切替えて測定が可能(HT-538/542/519で追加)



①判定基準枠に新基準枠が追加

②前部霧灯の測定処理を追加



(HT-538/542/519で追加)

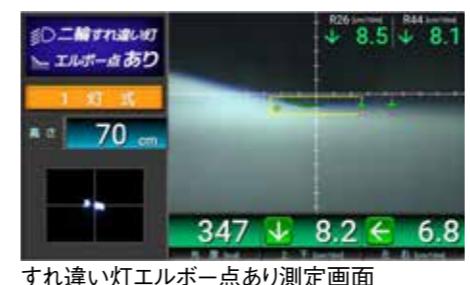
③カットオフライン調整補助機能を追加

- ランプ照射方向の調整の際に
使用する調整補助線を測定
画面に表示させることで作業
者の調整時の負担軽減に繋
がります(HT-538/542で追加)

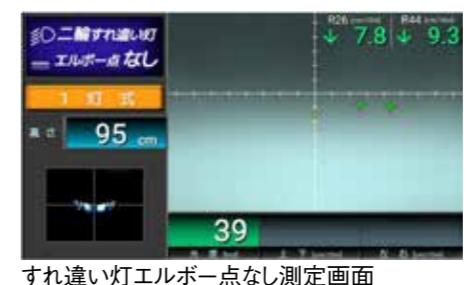


[二輪自動車対応計測キット]ヘッドライトテスター HT-348(342)

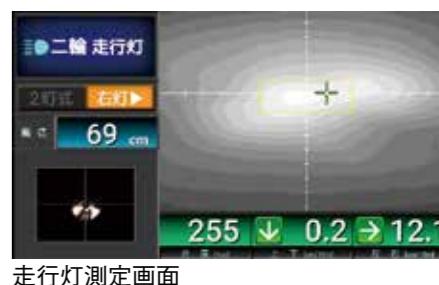
ヘッドライトテスター「HT-348(342)シリーズ」に対応した、
二輪自動車計測対応機器が登場!



すれ違い灯エルボー点あり測定画面



すれ違い灯エルボー点なし測定画面



走行灯測定画面

各灯種別の主な追加機能

- 二輪すれ違い灯エルボー点あり
 - ・エルボー点測定及び色別表示機能
 - ・路面点光度測定位置表示 下11[cm/10m] 左23[cm/10m]
 - ・光度32[hcd]以上での色別表示機能
 - ・R26/44[cm/10m]のカットオフライン上下位置測定と色別表示機能
- 二輪すれ違い灯エルボー点なし
 - ・エルボー点測定及び色別表示機能
 - ・路面点光度測定位置表示 下15[cm/10m] 左右0[cm/10m]
 - ・光度32[hcd]以上での色別表示機能
- 二輪走行灯
 - ・光度及び照射方向の測定と色別表示機能

※既設機器への対応について
下記「HT-348/342シリーズ」用オプション
型式:「HT-OP-MC-3A-34」、
商品名:「二輪自動車計測キット(HT-348/342用)」
をご注文いただき別途既設改造を申請することで
二輪自動車計測へ対応可能となります。

バンザイフォーラム名古屋2025を開催

2025年12月4日(木)～5日(金)の2日間にわたり、名古屋市工業研究所にて「バンザイフォーラム名古屋2025」が開催されました。オートサービスショー2025に出展した機器を中心に厳選した“最新”車検機器とタイヤ溝測定・アライメント、エイミングの実演、EV対応機器、作業環境改善の切札、エアコン・遮熱シート・高速シートシャッターを展示。美装ビジネスで人気の高いBPROコーナーも賑わいをみせました。屋外展示場では洗車機、足回り機器、レーザー溶接機など実演を交えての展示を行うなど製品に触れて、体感いただける展示会となりました。



セミナー

自動車産業全体から新時代の整備事業戦略手法に加え、事業承継まで幅広いテーマで訴求

新時代の整備事業経営戦略

(株)ティオ代表
山本 覚氏
新時代の経営戦略と顧客関係強化を図り、売上を拡大する手法をわかりやすく説明されました。



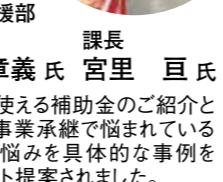
2026年自動車産業の展望

(株)ナカニシ自動車産業リサーチ代表
中西 孝樹氏
BEV、SDVが普及するなか、日本の自動車産業の今後とアフターメンテナンス市場の展望について解説されました。



自動車整備業で使える補助金と事業承継について

(株)フォーバル事業承継支援部
課長
長谷川 章義氏 宮里 亘氏
整備業界で使える補助金のご紹介と人材不足と事業承継で悩まれている経営者のお悩みを具体的な事例とともにサポート提案されました。



展示機器

セミナー後のデモンストレーションにて『モータリング装置内蔵トリプルテスター』と『多軸式速度試験機』にも注目が集まる!



最新車検機器とタイヤ溝測定器・アライメント、エイミングの実演



多軸式速度試験機

車検点検項目の効率化とコンプライアンス対策に!

「チャコール・キャニスター」の詰まりをチェック



キャニスターチェッカー

「タイヤの溝の深さ」をミスなく確実に測定



タイヤトレッドデプスゲージ

次世代モビリティ

大型・重量化する車両への対応!
特にEV特有のメンテナンスにかかせない機器をご提案



タイヤ受けアタッチメント



EV対応マルチリフター

作業環境改善機器

夏の暑さ対策は熱中症対策だけでなく作業効率の維持向上にも効果を発揮



マルチキューブ



シートシャッター、IS遮熱シート

今後も皆さんにとって価値ある情報を届けてまいります。

BANZAI GUIDE

事務所移転のお知らせ

熊本営業所、旭川営業所、水戸営業所は、下記日程より事務所の移転をいたしました。

●新事業所



【10月1日(水)】

福岡支店 熊本営業所

〒860-0834 熊本県熊本市南区江越1丁目6-27

TEL 096-378-2821(変更なし) FAX 096-378-2822(変更なし)



【11月10日(月)】

札幌支店 旭川営業所

〒070-0024 北海道旭川市東4条9丁目2-19

TEL 0166-29-6050(変更なし) FAX 0166-29-6051(変更なし)



【11月25日(火)】

関東支店 水戸営業所

〒311-4152 茨城県水戸市河和田1丁目1830-47

TEL 029-241-1478(変更なし) FAX 029-241-1560(変更なし)

編集後記



明けましておめでとうございます。

秋の名残を感じる日もありましたが、年明けとともに冷え込みが増し、いよいよ本格的な冬の気配が感じられるようになりました。

今年はインフルエンザが例年より早い時期から流行しています。

高熱が続く方が多い一方で、症状があまり出ない方、

<小野寺>

感染に気が付かず拡大してしまう『隠れインフル』も増加しているとか。

新年のご挨拶などでお忙しい時期かと存じますが、改めて休息と感染予防に気を配り、どうぞ健やかにお過ごしください。

本年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。